

社会生活をサポートする人工透析療法

人工透析は、腎機能を代替する治療として全国で30万人以上の患者が受けている(※)。原疾患として糖尿病の占める割合が大きく、合併症も多岐に及び、総合的な対応が必要だ。

奈良市西部に位置する西の京病院は一般急性期病床のみならず、地域包括ケア病棟、療養病床、介護施設を持ち、各科と密接に連携できる病院内を中心に4つの透析施設を設置している。全身疾患のコントロールの

糖尿病患者の病態コントロールを行う

一つとして透析医療を位置づけ、合併症予防や全身状態改善のためのさまざまな指導や治療を提供する。

近隣の透析施設からの紹介も多く、ICUでは術後の持続的血液透析ろ過(CHDF)や各種急性血液浄化にも対応している。特に糖尿病病者は全身の血管に動脈硬化を抱えやすく、狭心症、心筋梗塞、足の血管が閉塞して切断につながるおそれがある。重症下肢虚血を合併することも少なくない。同院では現時点で透析患者総数360名(2015年12月現在)を超えており、看護師による十



医療法人 康仁会 西の京病院

人工透析の確かな技術を持つスタッフによる、高い水準のサポートを実施



副院長・透析センター長 吉岡 伸夫

よしかのぶ ●医学博士。1984年に奈良県立医科大学卒業。98年4月に西の京病院に入職し、内科医長、透析室長を経て2001年4月に西の京病院副院長、透析センター長に就任。04年よりメディカルプラザ薬師西の京透析センター長、11年10月より西大寺クリニック院長に就任。日本透析医学会認定透析専門医。奈良県医師会透析部会常任理事、奈良県医師会透析部会透析骨髄分科会監事、奈良県医師会透析部会PD分科会世話人など

分な観察とケアを行う。また、皮膚の微小血管の流れを測定した際の皮膚灌注圧の評価を透析治療に精通した医師が総合的に分析し、薬物療法や血中の悪玉コレステロールを除去するLDL吸着療法を選択。更に血管内治療を行うことよって2012年12月以降、足の切断例は数名にとどめている。

患者が満足する医療を志す

同院では機械による血液透析ではなく患者自身の腹膜を使う腹膜透析(CAPD)を早くから行ってきた。最近では、透析液を補液してろ過を行う、通常の血液透析に比べて合併症予防に効果の高いオンラインHDFも積極的に導入している。血液透析およびCAPD

に関連する資格を取得した数多くの看護師や臨床工学技士に加え、日本糖尿病療養指導士も在職するなど、普段から患者に接しているスタッフの技術力も高い。突然のショックなどの緊急対応から、フツ



【診療科目】 内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科(人工透析)、糖尿病内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻いんご科、リハビリテーション科、放射線科、眼科、麻酔科(院長登志)、リウマチ科、血管外科、歯科、救急科

【受付時間】 8:30~12:00
【休診日】 日・祝

〒630-8041 奈良県奈良市六条町102-1
TEL.0742-35-1121 FAX.0742-35-1160
<http://www.nishinokyo.or.jp/>

トケアといった日常的な処置、当院自慢の管理栄養士による丁寧な栄養指導といった幅広い面でサポートを心がけている。

こうした質の高い医療への取り組みに加え、「人工透析は医療であり生活の一部でもある」という考えをもとに、美味しい食事の提供や、患者一人ひとりに配慮した在宅支援のための送迎サービスなど、アメニティの充実を図ることも高い患者満足度を目指してきた。「地域における最後の砦として、住民の方や他の医療機関からも信頼を得ています」吉岡伸夫副院長・透析センター長という自負もあり、透析治療に訪れる患者数も年々増加している。今後も地域の透析医療の担い手として研鑽を続けるだろう。

構成／滝戸直史

※日本透析医学会「慢性透析患者数の推移」